



7月某日、伊勢崎市介護保険課から「認知症政策で国から視察にくる」というお話があり、当初は全体像が分からず簡単に考えており、どのような形で誰が来るのだろうという程度の認識でした。しかし、総理が視察に来ることが私の耳に入ってから緊張感が一気に増しました。介護保険課とは毎日のようにやりとりし、当日に向けての事前準備を進めていきました。厚労省からの情報を逐一共有させて頂きながら、参加者（利用者）の調整を含む準備も進めます。前日には伊勢崎市の協力で、イスやスリッパ等の搬入があり入館者への検温までご協力頂きました。

また、現場スタッフに準備をお願いするなかで、最も苦労したのがセキュリティ上の問題での情報管理でした。「要人」という言葉はOKとなっておりましたが、最終的に施設の職員に岸田総理が来ることを伝えても良いという許可がでたのは、前日の17:00でした。

県警の方々も事前に建物周辺の状況確認や建物内部の避難路の確認、無線の確認等々、安全確保のための綿密なチェックを行っていたようで、その都度、必要な説明を致しました。また私たち職員も、外部の人間と区別できるように必ず「職員証」をつけるようにと指導があり、当日は館内で働くすべてのスタッフに職員証をつけるようにしました。更に、当日は官邸カメラやプレスもあり、伊勢崎市職員、群馬県職員、群馬県警、SPの方々が入館内



警備にあたる警察の方々

に入り乱れるような状況が想定できたので、まずは通常の利用者が混乱しないように事前に職員配置の入念なシュミレーションも行いました。事前準備は大変でしたが、貴重な経験をさせて頂けたと思います。

デイサービスセンターおおいど職員の感想

- 当日、緊張とわくわくの中でお迎えしました。いつも通りのプログラムを行い利用者さんの連帯感、達成感の表情を見てもらいました。『表情明るく皆さん笑顔でやっていたね。』との感想をいただきました。
- 岸田総理が視察後「職員の認知症ケアへの熱い思いを感じた」とコメントされていました。これからも、熱い思いを職員全員で共有していきます。

◆大井戸診療所 内科・精神科・心療内科
TEL:0270-62-3333 群馬県伊勢崎市東小保方町4005-1
・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション
TEL:0270-75-1114 TEL:0270-50-0861

◆訪問看護ステーションおおいど
TEL:0270-62-3489 群馬県伊勢崎市三室町4014-20

◆ケアマネジメントセンターおおいど
TEL:0270-50-0710 群馬県伊勢崎市三室町4014-20

◆いきいきデイサービスおおいど
TEL:0270-27-7310 群馬県伊勢崎市三室町4011-3

◆デイサービスセンターおおいど
TEL:0270-40-6777 群馬県伊勢崎市上諏訪町1766-8

◆グループホームおおいど
TEL:0270-40-6779 群馬県伊勢崎市上諏訪町1766-8

◆高齢者相談センター東(地域包括支援センター)
TEL:0270-75-5966 群馬県伊勢崎市三室町4014-20

医療法人あづま会のホームページはQRコードからもご覧いただけます



岸田総理がデイサービスセンターおおいど訪問



挨拶する大澤理事長

視察の経緯

2023年8月3日午前10時20分、猛暑の日差しが照り付けるなか、岸田総理が当法人の運営する「デイサービスセンターおおいど」を訪れました。今回の視察については、認知症基本法に基づく対策に向けて「現場の声を聴きたい」という意向により、当施設へ訪問となったようです。

視察の様子

到着した総理を出迎えたのは、大澤理事長、伊勢崎市長、畦元厚生労働大臣政務官、間厚生労働省老健局長に加え、当法人職員である伊藤統括責任者の5名です。厳重な警備体制が敷かれ、緊張感が張り詰めるなか、玄関先で伊藤が総理にデイサービスの概要を説明しました。

概要説明後、一行を館内へご案内。総理にも検温をして頂き、マスクも着用してもらいました。最初に見学して頂いたのは、デイサービスのレクリエーションの様子です。当日は音楽レクリエーションを行っており、利用者が音楽に合わせて笑顔で身体を動かす場面を10分ほど視察して頂きました。レク担当者の冗談に、利用者の笑いがこぼれるところもゆっくりと見て頂くことができました。また伊藤からは、適宜、デイサービスの通常のプログラムや利用者の普段の様子、また利用者の個性を尊重したケアなどの説明がなされました。



↑サービス概要を説明する伊藤



当日のレクを視察する一行



意見交換会

レクリエーション見学後は、場所を変え意見交換会です。グループホームの居間にて車座対話の形で「共生社会の実現の推進に向けた取り組み～認知症の人を含め国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮するためには～」をテーマに、35分間の話し合いが行われました。参加者は、デイサービスセンターおおいどの利用者である中島正子さんとそのご主人、職員の伊藤、伊勢崎市の認知症施策担当瀧澤さん、認知症本人大使「ぐんま希望大使」の本島文子さん、本島さんご家族2名、本島さんの主治医である山口晴保先生です。

老健局長の司会により、総理が質問し、参加者が適宜回答をしていくという流れで意見交換が進んでいきました。最初に総理の挨拶から始まったのですが、その話を聞いた中島正子さんが「あなた良いこと言うわね」と思わず発言し、それに対して総理が「ありがとうございます」と返答されたことをきっかけに、場の空気も和み、終始穏やかな雰囲気での話し合いがなされました。



車座で参加者の発言に耳を傾ける総理



総理に想いを伝える伊藤

ご家族へ日々の苦勞話を伺う場面では、中島さんのご主人が「群馬の森をよく散歩するんですけど、いつもこうやって手を繋いでるんですけど、すぐいなくなっちゃうから」と述べると、本島さんのご主人も同意されていました。

またケアを担当する職員の立場からの意見として、伊藤からは「家族を支えるための具体的な助言をする」ことや「できないことではなく、できることを見つけて支援してく」ことの大切さを伝えました。

山口晴保先生からは、本人の能力を奪わない支援や、認知症になっても楽しく生きていける仕組みづくりが必要である旨の説明がなされ、総理も政務官も深く頷いておりました。

視察終了

最後に記念写真を撮って、今回の視察は無事終了となりましたが、帰り際に老健局長から「このようなフランクな形で総理に現場の生の声を聴いて頂いたのは非常に良かった」とのお言葉を頂きました。視察を受け入れる施設側として、トラブルなく対応できたことに安堵するとともに、これからも認知症ケアに積極的に取り組んでいこうと思った瞬間でした。

ご協力を頂いた皆さま、本当にありがとうございました。



視察翌日の朝刊

朝日新聞
2023年（令和5年）8月4日

は、認知症に関する初の法律「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立。超党派による議員立法だった。

政權浮揚につなげたい意図も見え隠れする。岸田政権が重要課題と位置づける防衛力強化やGX（脱炭素）、少子化対策の打ち出しが一段落したため、政權の働きぶりをアピールする新たな取り組みが必要だった。政府は来月立ち上げる

は、認知症に関する初の法律「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立。超党派による議員立法だった。

政權浮揚につなげたい意図も見え隠れする。岸田政権が重要課題と位置づける防衛力強化やGX（脱炭素）、少子化対策の打ち出しが一段落したため、政權の働きぶりをアピールする新たな取り組みが必要だった。政府は来月立ち上げる

は、認知症に関する初の法律「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立。超党派による議員立法だった。

政權浮揚につなげたい意図も見え隠れする。岸田政権が重要課題と位置づける防衛力強化やGX（脱炭素）、少子化対策の打ち出しが一段落したため、政權の働きぶりをアピールする新たな取り組みが必要だった。政府は来月立ち上げる

認知症対策首相が本腰 限られる財源 施策未知数

岸田文雄首相が「国家プロジェクト」と位置づける認知症対策の拡充に向けて動き出した。3日には群馬県の介護施設を視察し、認知症をめぐり「総合的な施策」を検討するための会議を立ち上げる方針を表明した。新たな看板政策にした。首相はこの日、認知症対応型の介護施設を訪れ、当事者らと前にこう強調した。「認知症の方を含め、すべての方が生きがいを感じる多様な包摂性を

い考えだが、財源は限られており、有効な施策が打ち出せるのは未知数だ。

首相はこの日、認知症対応型の介護施設を訪れ、当事者らと前にこう強調した。「認知症の方を含め、すべての方が生きがいを感じる多様な包摂性を

大切にしてできる社会を実現していきたい」

視察後に記者団の取材に応じ、認知症の当事者や家族、有識者が参加する会議を来月立ち上げると表明。認知症の予防や早期診断、症状の進行抑制のための研究開発などの議論を深めていきたいと力を込めた。

通常国会が閉会した6月21日。首相は記者会見で、認知症対策について「先送りせず挑戦していくべき重要な課題」と述べ、「国家プロジェクト」として取り組む考えを示した。厚生労働省によると、認知症の人は2025年時点で推計約700万人。通常国会で

認知症をめぐり政府の動き

2000年	介護保険制度開始
05年	「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」構想
13年	認知症施策推進5ヵ年計画（オレンジプラン）開始
15年	新オレンジプラン開始
19年	「共生」と「予防」を両輪とする認知症施策推進大綱を決定
23年	認知症基本法が成立

認知症の人の将来推計

年	推計人数(万人)
2012年	15
2020年	20
2025年	30
2030年	40

厚生労働省の資料から。認知症の有病率が2012年以降一定と仮定

※記事中の『認知症対応型の介護施設』が当法人のデイサービスセンターおおいどになります。